

B·brain

リッチコンテンツ時代の
ビジネスモデルを追究する

[ブロードバンド・ブレイン]

JUNE 2002
NO.0004

6

Contents

Inter**view**P.106

インフラのブロードバンド化で
“企業内コンテンツ流通”が加速する

B-**style**P.110

【ソリッド・エクスチェンジ】
コンテンツの流通・権利保護・配送まで
ブロードバンド流通事業を総合演出

シリーズ
ブロードバンド時代のISP法人戦略...P.114

【ニフティ】
6万5000社の法人会員を強みに
ASP、ビジネスポータルの成長狙う

Broadband
Market **eye**P.116

アプライアンス市場の均衡破る
電機メーカーの勢力地図を読み解く

Technical **element**P.124

ストリーム配信応用例にみる
Peer to Peer 技術の欠点と魅力

ColumnP.130

垂直展開目指す家電系メーカー
競争の舞台はラストクォーターマイル

News **flash**P.132

COVER 日本オラクル E ビジネス本部
ブロードバンドビジネス開発部 ディレクター
堀 亮一 氏

Photo : Minoru Mitsui

B - b r a i n

Interview

B-style

Broadband
Market eye

Technical element

Column

News flash

ソリッド・エクステンジ

コンテンツの編集・権利保護・配送まで ブロードバンド流通事業を総合演出

国内有数のSIであるNTTデータは、国内最大の映像処理会社(ポストプロダクション)であるIMAGICAと組んでコンテンツ配信ビジネスを支援する合弁会社、ソリッド・エクステンジを2002年2月19日に設立した。両社はコンテンツのデジタル化から配送までをカバーするワンストップソリューションの提供を売りに、4月1日から本格的な営業活動を開始。通信と放送の両市場をカバーするブロードバンド時代のコンテンツ流通パートナーとして名乗りをあげた。

Company Profile
 代表取締役社長：加藤治彦
 本社：〒140-0002 東京都品川区東品川3-13-6 品川プロダクションセンター4F
 資本金：4億9000万円(NTTデータ63.3%、IMAGICA36.7%)
 社員数：20名
 事業内容：各種ソフトウェア(番組/映画/音楽等)の編集・管理・供給・配信および売上の仲介・代行。映像/画像/音声の補正・修正処理。広告/番組の企画・制作・編集・提供。検索情報に関するデータベースの作成・提供。暗号技術を利用した著作権/著作権隣接権等の管理・保全。各種ソフトウェア(番組/映画/音楽等)利用料の徴収代行。データ通信システムおよびこれに関するソフトウェアの開発・販売・保守・賃貸など

コンテンツ配信ビジネス支援事業を手がけるソリッド・エクステンジは、NTTデータの資本が63.3%入ったNTTグループ企業である。しかし、企業名には金看板となり得るはずのNTTの文字が見当たらない。

ソリッド・エクステンジの前川義己取締役は、「コンテンツホルダーやアクセスライン事業者の黒子としてすべての企業と対等にお付き合いし、企業には積極的に当社のサービスを利用していただきたい想いからNTTの冠を外した」と説明する。そのうえで、「システム開発分野で実績のあるNTTデータと、映像処理分野で実績のあるIMAGICAから生まれた信頼ある企業、という意味を込めSOLID(信頼できる)の文字を配した」という。

ソリッド・エクステンジのコンテンツ配信支援事業は、ブロードバンド市場を放送やパッケージメディアに続く新たな流通市場として捉え、ここでビジネスチャンスを狙っている企業のアナログコンテンツをデジタル化し、同時に権利保護やアクセスライン事業者との仲介も代行するという、コンテンツ配信のためのトータルソリューションだという。同社ではこれを「コンテンツハンドリングサービス」と呼んでいる。



ソリッド・エクステンジ取締役の前川義己氏

バリューチェーンに沿った事業展開

ソリッド・エクステンジでは、コンテンツハンドリングサービスの事業領域を、デジタルコンテンツの編集加工事業、デジタルコンテンツの流通支援事業、コンテンツ配信権の共同調達仲介事業、番組販売代行事業の4つに分類している。

これら事業領域のうち、同社の主力事業とされるのは、この部分で、この2つはコンテンツ流通のバリューチェーンに沿った形で構成されているという。ソリッド・エクステンジの考えるコンテンツ流通のバリューチェーンは、コンテンツ制作・調達、デジタル化、編集、権利保護、配送、編成、伝送、ユーザー側端末という流れ

(図1) この中でデジタル化、編集、配送、伝送に関するサービスは を構成し、権利保護に関するサービスは を構成している。

個々のサービスの中身は次のようなものになっている。

デジタル化は、コンテンツをパソコンやPDAで再現できるファイル形式にエンコード、トランスコードするサービス。

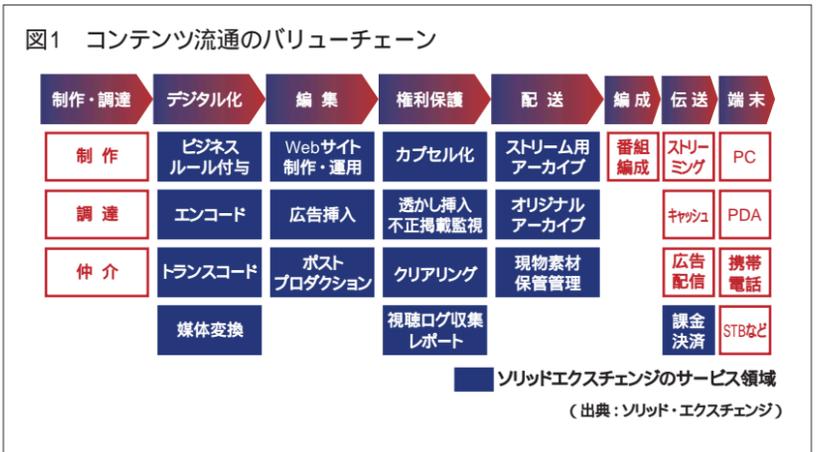
編集は、Webサイトの制作・運用やコンテンツの編集・加工、さらにネットワーク上でコンテンツを流す際に権利処理の済まされていないBGMを取り除くといったいわゆるポストプロダクション業務。

配送は、NTT東西のようなアクセスライン事業者あるいはISPのマスターキャッシュに、デジタル化したコンテンツを指定された日時に送り届けるもの。

伝送は、ここでは課金・決済のサポートだが、ソリッド・エクステンジがアクセスライン事業者に代わってコンテンツ料金をエンドユーザーから回収するわけではない。将来、企業や個人がアクセスライン事業者を介さずにコンテンツを流通させるようになった場合に、課金・決済の手段を提供するという考えにたったもの。

権利保護はDRM(Digital Rights Management: デジタル著作権管理)に関するもので、コンテンツを視聴する際に必要となる暗号化・権利情報の埋め込み(カプセルリング) 著作権保護されたコンテンツの暗号を解除し利用可能にする鍵(キー)発行(クリアリング) 電子透かしと呼ばれるcIdfに準拠した独自IDの埋め込み、そして収集した視聴ログのレポートなどである。

コンテンツを保有する企業にとっては、アナログ素材をソリッド・エクステンジに預けるだけで、あとは取引先のアクセス



ライン事業者やISPまで必要な処理を施して届けてくれる「ワンストップソリューション」を享受できることになる。

SIとデジタル化業務で分業

前述のサービスを提供していくにあたり、出資会社であるNTTデータとIMAGICAはそれぞれどのような役割を担うのだろうか。

前川取締役は、「コンテンツ流通のバリューチェーンをワンストップで実現するためには、システム開発とコンテンツのデジタル化や編集といった作業が必要とされる。そこで、主にNTTデータがSIとしてシステム開発の領域を担当し、IMAGICAがポストプロダクションとしてデジタル化などの領域を担当している」と説明する。具体的には、NTTデータは権利保護や配送に必要なシステム開発運用を、IMAGICAはデジタル化領域で必要となる人材とノウハウ、設備などを提供している。

そもそもソリッド・エクステンジが誕生したきっかけは、こうした「システム開発領域とデジタル化領域の両方がコンテンツ流通のバリューチェーン形成には不可欠」との議論がNTTデータ社内でも交わさ

NTTデータ
 代表取締役社長：青木利晴
 本社：〒135-6033 東京都江東区豊洲3-3-3 豊洲センタービル
 資本金：1425億2000万円
 社員数：648名
 事業内容：第二種電気通信事業。データ通信システムおよび関連ソフトウェアの開発・販売・保守。通信ネットワークを利用した情報処理・商取引の決済処理業務。マルチメディアコンテンツの制作・販売。著作権など知的財産権の取得・管理。上記事業に関する各種コンサルティングなど
 URL: http://www.nttdata.co.jp/

IMAGICA
 代表取締役社長：長瀬文男
 本社：〒141-0022 東京都品川区東五反田2-14-1
 資本金：3億円
 社員数：648名
 事業内容：各種映像ソフト(テレビ番組/映画/ビデオ等)の企画・制作・販売。映像関連機器およびシステムの開発・製造・販売。放送番組の企画・制作・編成。アミューズメント施設におけるAVシステムの企画・制作など
 URL: http://www.imagica.com/

DRM
 Digital Rights Management: デジタル著作権管理。デジタルコンテンツの不正コピーやソフトウェア改造といった著作権を侵害する違法行為から著作物を守る技術の総称

cIdf
 content ID forum: 東京大学の安田浩教授の提唱により1999年8月に発足した、デジタルコンテンツに固有の「コンテンツID」を付与することでコンテンツの著作権管理や流通促進を目指す団体。幹事企業はNTT、NHK、電通など
 URL: http://www.cidf.org